

枯葉コンポスの作製ならびに作製したコンポスト肥料を用いた農業体験

紅葉は日本の秋を彩る重要な要素の一つと考える。その景色を求めて山に登ることを紅葉狩りと称されるなど、日本人の中でも特別なものであると考える。しかし人の多い都会部に行くと、景観を彩るものとは異なり邪魔なものとなっているように思える。この枯葉を有効利用することができれば、より豊かな社会の実現ができると考えるので標記のテーマである枯葉コンポスの作製を提案した。また、コンポストを作製するだけでは世の中のどこでも行われていることなので、それを用いた農業体験によりリサイクル意識の向上を目的とする。

方法としては落ち葉を集めてコンポストを作るといった流れであるが、道具等はいずれに土中に埋める方法で作製する。やや時間はかかるが、できる限りローコストで行うことと自然との共存という意味で、微生物の働きを体験することもできるからである。ここで最も問題になるのは場所である。発酵や腐植土になるまでに時間がかかることやその後農業体験を行うため、長期間場所を借りることになる。すると費用も多大になるため、慎重な場所選択が必要となる。この問題に関して、ビルの屋上を使うことで解決できると考える。近年話題となっている屋上菜園を採用することで未利用地の有効利用といった観点からも有意義なものと考えられる。ビルの屋上ということもあり、発酵菌などは自分たちで撒かなければならないが菌類に関する大学の研究と提携すると、産学連携した活動となり、よりよい活動になるのではないだろうか。

コンポストを作成した後の農業体験に関しても、農業離れ対策になりえる。農業指導員としては農業高校の学生や先生たちとの交流を行いながら作業をすることで建設コンサルタントのイメージを説くこともできるのではないかと考える。私が学生の頃、建コンがどういったことをやるのかというどころか存在すら知らなかった。こういった活動を通すことで、建コン業界を世に知らせることもできるだろう。

土木とは、土と木と書くことで一つの言葉が成り立っている。土について考え、木ではないが植物を育てるといったことも立派な土木というものではないだろうか。そのように考えると、土木と農業は非常に関わりが強いものであるべきだと考える。共存ではないものの、相互理解を深めることのできるこのイベントを行ってみたいと考える。